

## 黙示録1章1節 「イエス・キリストの現れ」

### 1A 栄光の現れ

1B 「黙示」の意味

2B シナイ山への降臨

3B 主の幕屋

4B 高い山の変貌

### 2A 預言の成就

1B 預言の霊

2B イエスの証し

### 3A 主の苦難と御国と忍耐

1B キリストに結ばれた者

2B 苦しみ後の栄光

3B 聖なる、正しい裁き

### 4A 福音の招き

## 本文

黙示録 1 章を開いてください。今日から、黙示録の学びが始まります。ついに、聖書の最後の書物となりました。2011 年 2 月に創世記から始めて、順番に読み進めましたが、ついに 13 年半後、2024 年 9 月で最後の書に入ります。今朝は、1 章 1 節の言葉から、黙示録全体を眺めてみたいと思います。1 節の言葉は、「**イエス・キリストの黙示**」です。

### 1A 栄光の現れ

#### 1B 「黙示」の意味

この書物の題名が「ヨハネの黙示録」なのですが、黙示という言葉の意味を知れば、「**イエス・キリストの黙示**」が正しいです。アポカルプシス(ἀποκάλυψις)というのが黙示のギリシア語ですが、これは「隠れていたものが現れる」という意味です。他の使徒たちの手紙でも、「イエス・キリストの現れ」という言い回しがありましたが、「顕現する、現れる」という意味になります。中国語も、韓国語も、「イエス・キリストの啓示」と訳していますし、書物の名前は啓示録です。日本の教会では、黙示録という題名に引きずられて、この書物は隠れた、秘められた言葉で語られており、その意味は明瞭ではなく、あやふやであるという印象を、牧師でさえが与えている傾向があります。これは分からない、封じられた書物だと。いいえ、読んでいけばわかりますが、これまで封じられていたものが開かれて、明らかにされているのです。

アポカルプシスの元々の意味は、「覆いが除かれる」という意味です。ある人がこの言葉を、次

のように例えました。市役所の前に、有名な彫刻家の彫刻の除幕式があることを想像してください。町の人々が集まってきて、市長があいさつをします。楽団がファンファーレの音楽を奏でて、そしてついに、彫刻を覆っていた幕が取り除かれます。そして、今まで隠されていたその彫刻の全容が、はっきりと現われ、明らかにされます。

ところで、教会の日曜礼拝における説教では、黙示録に入るのは初めてですが、水曜日の学びでは、じっくりと学んだことがあります。興味深いことに、初めはユーチューブの再生回数が多いです。ところが回を経るごとに、少なくなっていきます。それもそのはずで、黙示録というと、何かセンセーショナルなことが聞けると思っているからです。けれども、黙示録はその主題が、「イエス・キリストについて、その全貌が明らかになる」という意味だからです。この方にある神の栄光が現れるのです。ですから、終末のいろいろな出来事がああだこうだと、センセーショナルに論じるのが好きな人は飽きるのです。そうではなく、自分が今、見てもいないのに愛して、信じている、イエス・キリストのすばらしさ、その栄光が明らかになることを、切に待ち望んでいる人々が、この書物を読んで、幸いを得ます。

## 2B シナイ山への降臨

聖書というのは、旧約聖書と新約聖書と分けていますが、読めば読むほど、これは二つの書物ではなく、一つの神の書物であることに気づかされます。黙示録に書かれていることは、旧約聖書にあることを、イエス・キリストにあって実現していくことが、克明に描かれています。

黙示録を一連の流れで読まれた方は分かるでしょう。初めに、栄光に輝くイエスの御姿が現れ、それから、七つの教会に対する主の使信があります。そして、その後に起こることがありますが、まず天にある情景があります。そこに父なる神が御座に着いておられ、子羊イエスが、彼から巻物を受け取ります。それは封印で閉じられていますが、一つずつ解かれて、その度に災いが下ります。そして再び、天における情景があり、そこで神への賛美が献げられています。天には、神殿があるようで、そこから御使いによって、その御怒りが地上に注がれるのです。

そしてついに、御子イエス・キリストが地上に、その栄光と力によって現れ、世の勢力を滅ぼし、千年期の統治を経た後、ついに悪魔自身を滅ぼし、そして新しい天と新しい地を造られます。そこに、天からの都エルサレムが、新しい地に降りてくるのです。

これがちょうど、主が、イスラエルの民に現れる時に、シナイ山に天から降りて来られる時の栄光と、恐ろしい光景に重なるのです。「出エ 19:16-19 三日目の朝、雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上にあって、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。モーセは、神に会わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。シナイ山は全山が煙っていた。【主】が火の中にあって、山の上に降りて来られたからである。煙は、かまどの煙のように

立ち上り、山全体が激しく震えた。角笛の音がいよいよ高くなる中、モーセは語り、神は声を出して彼に答えられた。」主が、天にある栄光を携えて、地上に降りて来られます。その時に、畏怖に打たれるような光景が繰り広げられます。聖なる、正しい方が、罪が広がっている地に降りてくる時、その間にある強い摩擦、聖さと汚れの間にある摩擦が、災いや裁きという形で現れます。

### 3B 主の幕屋

そして、シナイ山で主は、モーセに、幕屋を造るように命じられます。その幕屋において、祭司が入り、牛や羊の血を携えて罪を清めるようにされます。そこにある青銅の祭壇、金の香壇などがあります。幕屋が造られた後に、栄光の雲が満ちますね。黙示録にも、天において、御使いたちが活発に動いているところには、まさに主の幕屋があり、香壇からの香の火をもって、それを地上にぶちまけると、災いが下るといような光景があります。また、栄光の雲で聖所が満ちる場面もあります。天における賛美や礼拝、奉仕の姿が見えます。

このようにして、天にあるものが、その神の聖さと正しさが、イエス・キリストにあって地上に現れ、罪と不法で反抗している者たちに現れて、裁かれるというのが、黙示録の大まかな流れになっているのです。

### 4B 高い山の変貌

主は、初めに来られた時、しもべとして来られました。その栄光に戻ることを思いながら、地上で仕えておられました。しかし、弟子たちにわずかに、その御国の姿をお見せになった時がありました。映画で言うならば、本編の前の予告編です。ピリポ・カイサリアで、ご自身が、生ける神の子キリストであるとペテロが告白した後、弟子たちに言われました。「マルコ 16:28 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、人の子が御国とともに来るのを見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」そして、主のお姿が真っ白に輝く姿に変わりましたね。その栄光のお姿で、黙示録 1 章で、主はヨハネに現れます。

### 2A 預言の成就

このようにして、主の栄光が現れる黙示録には、まず、天における栄光が、地上に降りてくるといような大きな流れを見ることができます。次に、黙示録は、これまでの主ご自身についての預言がすべて成就するという大きな目的があります。

### 1B 預言の霊

黙示録 19 章で、天における、子羊なるイエスと花嫁なる教会の婚姻が行われている姿が出てきます。これを見て圧倒されたヨハネは、思わず、御使いの前でひれ伏そうとしてしまいます。御使いも、神の栄光を反映して光り輝いているので。しかし、御使いがヨハネを厳しく戒めます。「19:10 いけません。私はあなたや、イエスの証しを堅く保っている、あなたの兄弟たちと同じしもべです。

神を礼拝しなさい。イエスの証しは預言の霊なのです。」イエスの証しは、預言の霊だということですから。これは、預言を語らせる神の御霊は、その預言でイエスを証しているということです。10章で、力強い御使いが、「10:7 第七の御使いが吹こうとしているラッパの音が響くその日に、神の奥義は、神がご自分のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。」と証言しています。

ユダヤ教徒の人たちが、新約聖書を読んで、最も親近感を抱く書物の一つが、黙示録だと言われています。なぜだか、分かりますか？それは、旧約聖書の預言を膨大に語っているからです。彼らにとって、親しんでいる預言の話が、どんどん出てきます。新改訳のページの下には、引照や説明が小さな文字で書かれています。他のどんな聖書箇所よりも、黙示録は引照する他の聖書箇所がぎっしりつまっています。預言がいかにも、イエス・キリストにあって成就しているかが、よくわかるのです。

## 2B イエスの証し

主ご自身が、地上におられた時に、聖書の預言や約束の成就を強く意識しておられました。山上の垂訓で、かなり強く断言しておられます。「マタ 5:17-18 わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。まことに、あなたがたに言います。天地が消え去るまで、律法の一点一画も決して消え去ることはありません。すべてが実現します。」そして弟子たちに天の御国の奥義を喩えで語られた時に、あなたがたは幸せですと言われました。「マタ 13:16-17 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、あなたがたが見ているものを見たいと切に願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。」今、ご自身にあって預言者たちが待ち望んでいたことが、ことごとく成就するのだよと言われているのです。

そして、最後の夜、捕えられる時にペテロが剣を持ちましたが、さやに収めなさいと言われました。御使いの軍団を呼ぶことさえできると言われた後に、それでも優先しなければいけない事を教えました。「マタ 26:54 しかし、それでは、こうならなければならないと書いてある聖書が、どのようにして成就するのでしょうか。」そしてよみがえられてから、聖書全体からの講解、解き明かしを行われましたね。エマオの向かっていた弟子たちに語られました。「ルカ 24:27 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自身について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」聖書全体にある預言を、ご自身にあって成就していく姿を説き明かされたのです。

そして、ロゴス・ミニストリーのホームページの「はじめに」というところで、私は聖書全体の学びにおいて大事なことを書いています。「イエスさまが言われました。「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。」(ヨハネの福音書 5:39)この「聖書」とは、もちろん旧約聖書のことを指しています。旧約聖書

を読むと、イエスさまの姿がくっきりと見えてきます。』<sup>1</sup>イエスを証言しており、その預言がことごとく成就していくさまを、私たちは黙示録で見るのです。私たちは、これら一つ一つの預言を宣言されることによって、ただただ、「しかり、アーメン」と言って、主の前でひれ伏すしかないのです。

### **3A 主の苦難と御国と忍耐**

そして、黙示録は、聖徒たちに対する励ましの書でもあります。ヨハネは、この啓示を、パトモス島で受けています。時は、ローマのドミティアヌス帝の時代。キリスト教会に対する迫害が、苛烈になっていました。ヨハネも一度、処刑されそうになりますが、奇跡的に守られ、このパトモス島に流刑にされていました。

#### **1B キリストに結ばれた者**

そこでヨハネは、このように証しています。「1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟で、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐にあずかっている者であり、神のことばとイエスの証しのゆえに、パトモスという島にいた。」イエスにある苦難と御国と忍耐と言っています。

これはキリストに結ばれた者は、キリストご自身が苦しみを受けられ、栄光に入れ、そして戻ってこられて御国が到来するように、私たちも、この方に会って苦しみを受け、栄光の中に入り、この方と共に地上に戻って来るという希望があるということです。その希望が実現するまでは、信仰と忍耐の中に生きるということでもあります。「ロマ 8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。」

#### **2B 苦しみの後の栄光**

黙示録には、いや、使徒の働きや手紙には、いや預言者を含む聖書全体には、数多く、御国に入るまでは苦しみを経なければいけないということが書いてありますね。神の国から始まったこの世界ですが、アダムが罪を犯したことで、悪魔が支配しています。そこで神によって新たに生まれているのですから、敵陣に、神の陣営が突如、形成されたようなものです。この、西日暮里に、神の陣営が、設置されたのです。ですから、世は反対するのです。無視によって、いやがらせによって、無関心によって、時にはありもしない中傷によって、です。そして多くは、日常の生活で世の思い煩いを与え、信じていても報われないと思わせ、嘘をついているのです。けれども、私たちは信仰によって忍耐します。必ず主は来られ、御国が来ることを信じて忍耐します。

黙示録には、聖徒たちの忍耐が奨励されています。七つの教会に対してそうでした。妥協している人々には、悔い改めを促しておられます。そして、聖徒たちの首が斬られることも、数多く語られています。獣の国では、聖徒はイエスの証しを捨てないかぎり、必ず殺されて行きます。しかし、殺

---

<sup>1</sup> <https://www.logos-ministries.org/bibintr.html>



されても天において、神を賛美しています。そして、先に携挙された教会の聖徒たちと共に、主が再臨される時に、共についてくるのです。

### 3B 聖なる、正しい裁き

そして、苦しみを与えてきた不信仰な世に対して、神は正しい裁きを行われる、報いられることも、黙示録でははっきりと描いています。6章には、殉教した聖徒たちが、大声で叫んでいます。「6:10 聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。」主は、これからまだ兄弟たちが殺されるから、その数が満ちるまで休んでいなさいと言われます。そして、どんどん、聖徒たちを流した罪に対する、神の激しい御怒りが現れます。

最後に、大きな都バビロンが聖徒たちを殺していたのですが、バビロンが完全に倒壊したので、天において大歓声が上がります。「19:1-3 その後、私は、大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。神のさばきは真実で正しいからである。神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。」もう一度、彼らは言った。「ハレルヤ。彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。」私たちは、使徒たちの手紙で、このことを何度も教えられてきましたが、黙示録では、それが最も鮮明に、生々しく描かれているのです。

### 4A 福音の招き

最後、黙示録にある大きな流れは、実は、福音を信じることへの招きなのです。患難の中を通っている時に、聖徒たちがどんどん死んでいくので、ついに御使いが飛んで、福音を伝えます。「14:6 また私は、もう一人の御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。」そして、最後の最後、天のエルサレムの幻が啓示された後で、イエス様は、こう招かれます。「22:17 渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」このように、福音を信じて受け入れる招きがあるのです。

いかがでしょうか？天にある主の栄光が地上に降りてくるという流れ。預言者の語ったこと、イエスについての証しがすべて成就するという流れ。それから、聖徒たちが苦しみ、その後に栄光の中に入るけれども、忍耐することの奨励。そして最後に、福音への招きです。これらがみな、イエス・キリストご自身、その栄光がすべて明かされる、啓示される形で、書き記されたのが、この黙示録です。信じている人は、永遠のいのちへの確信を深めてください。まだ信じていない人は、どうか、ただで、いのちの水を求めに、イエスのところに来てください。